

東大阪市ならびに田辺市の都市計画を ふまえた未来志向のまちに関する検証： 布施駅と紀伊田辺駅の周辺地域に おける商業と観光の課題と展望

境 新 一

1. はじめに

筆者は日頃からフィールドワークを用いた、まち・商店街の調査・研究、産学公連携活動、地域活性化の提案、アートとビジネスを融合した価値創造、総合的なプロデュースを行ってきた¹⁾。本稿は、関東地方から離れ、近畿地方、特に大阪府と和歌山県におけるまち、商業、観光地域に注目した研究・調査を総括したものである²⁾。元来、和歌山県は地理・自然環境の上でも、経済・社会・文化の上でも大阪府との間で相互に影響を受ける近さの距離に位置することはいうまでもない。

本研究においては具体的には東大阪市／近鉄線・布施駅周辺、田辺市／JR線紀伊田辺駅周辺に絞り、まちの創造を支える基礎となる行政の都市計画をふまえながら、各地域のまちづくりの特徴、商業・観光の現状と課題ならびにまち・商業・観光の相互関係を検証し、最後に未来を志向するまち、商業施設・商店街、観光地域の在り方を考察することとした。

2. 分析対象ならびに分析方法

2-1 分析対象

分析対象である東大阪市、田辺市に関しては、まず行政資料にもとづい

て都市計画、まち、商業施設、文化施設観光名所などをおおきく概観し、情報を整理総括した。次に、実査する対象をしばり、東大阪市については、近鉄線の布施駅、田辺市については、JR線の紀伊田辺駅を起点にその周辺地域に対して広範囲にフィールドワークを実施した。

2-2 分析方法

分析方法としては、公開情報として文献調査(行政資料、個別収集資料)ならびに個別情報として、行政担当者、商業、農業の従事者にインタビューを行い、写真、動画の撮影を通して、情報収集と解析を行った。なお、フィールドワークの実施時期は、2023年8月(3日間)、9月(3日間)、11月(2日間)、12月(2日間)、2024年1月(1日間)である。

2-3 分析目標

本稿のテーマである「未来志向のまち」とはいかなるものか。その一般的な定義はないものの、それを実現可能にする条件、例えば、地域データベースの作成解析、交流の場づくり、デザインとテクノロジーの構築と活用、文化の創造、心身健康の促進と実現等の要件があげられよう³⁾。

第一に、まちづくりには「プロデュース」「マネジメント」とともに必要となる。特に、マネジメントに関しては、エリアマネジメントである。小林重敬らによれば、それは本来「地域の価値を維持・向上させ、また新たな地域価値を創造するために行われ、内発的、自律的に継続できる地域と経営の仕組みづくり」とされる⁴⁾。また、関係者が連携を通し、地域の存在意義・価値を向上させる運営することが大切である。

第二に、まちが個性を生かして、独自の進化をすることが求められる。都市計画については、産学公民連携に代表される、まちづくりに関して行政・研究機関(大学を含む)を中心に企業や市民との協働を行い、都市機能の維持展開、土地の高度利用、郊外住宅地の環境整備などが必要となる。

一方、制度面では、建築基準法などの用途規制を時代に即して変化させることも不可欠である。

最後に、文化と健康の促進については、働き方、生活の楽しみと娯楽、新たなライフスタイルや場を創造することが求められよう。社会学者、オルデンバーグ (Ray Oldenburg, 1932-2022) によれば、ファーストプレイス (自宅)、セカンドプレイス (学校・職場) に対して、そのいずれでもない居心地のよいサードプレイス (第三の場) のような拠点が最も重要となるという。そしてサードプレイスとは、次の8つの特徴を備える場と定義される。1. 中立性が維持される。2. 社会的平等性が担保される。3. 会話が存在する。4. 利便性がある。5. 常に一緒に行動する仲間／常連が存在する。6. 地味で目立たないものの親しみがわく。7. 遊び心がある。8. 感情の共有がある⁵⁾。

コンパクトシティやスーパーシティという概念・定義はひとまずおいて、以上の要件が従来のにまちに実装され、実際に今までにないまちを実現すれば、それが結果として未来志向のまちの創造につながるものと考えられる。

今回の研究では特に、以下の内容を分析目標としてかかげる。

- (1) まち、商業施設、観光施設などの魅力・評価を高めるために、持続的な成長の実現、関係する全員の幸福の追求、それを支える人的、物的、財務的な投資をいかにすすめるか、その実態を明らかにする。
- (2) 未来志向のまちづくり、新たな事業創造、産学公民連携、多世代の交流の場づくり、などが具体的にどのように行われているか、その現場を可能な範囲で観察する。
- (3) 交通・立地を生かした産業振興、歴史・文化等を活用した観光振興、子育て・教育など次世代への投資、医療の充実などの健康増進、安全・安心の向上などが具体的にどのように図られているか、可能な範囲で考察する。

3. 都市計画マスタープランの概要と役割

まちづくりを進めていくためには、都市全体や身近にあるまちを将来どのようにしていきたいかを具体的に考えていくことが重要である。都市計画マスタープランとは、1992（平成4）年の都市計画法改正により規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」（法第18条の2）を指す。都市計画マスタープラン（略して都市マスともいう）は、市町村議会の決議を経て定められた市町村の基本構想、および「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して、市町村が定めることになっている⁶⁾。

「都市づくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、個別具体の都市計画の指針として地区別の将来のあるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針を明らかにする市町村のマスタープラン」（法改正当時の建設省都市局長通達）とされる。

作成に当たっては、「必ず住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるもの」とされており、策定委員会の設置、説明会、アンケートなどを実施するのが一般的である。

2000（平成12）年の法改正により、従来の「市街化区域及び市街化調整区域の整備、開発又は保全の方針」（略して「整開保」）に代わって、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（法第6条の2）が規定された。これは都市計画区域マスタープラン（略して区域マスともいう）とも呼ばれる。都市計画区域マスタープランは都道府県が定め、人口、人や物の動き、土地の利用のしかた、公共施設の整備などについて将来の見通しや目標を明らかにし、将来のまちをどのようにしていきたいかを具体的に定めるものである。

「都市マス」「区域マス」はともに、都市の人口・産業の動向をふまえ、将来像を示し、個々の都市計画を位置付ける役割を持つもので、建築行為等に直接的な規制を行うものではない。

なお、マスタープランのほかに、立地適正化計画がある。これは都市再生特別措置法（2022（平成14）年法律第22号。最近改正2022（令和4）年5月）第81条に記載された計画のことを指す。人口密度や医療・福祉・商業などの施設の立地状況を分析し、人口減少や高齢者の増加に対応した持続可能な都市経営の実現をめざす計画である。立地適正化計画は、都市全体を見渡したマスタープランとしての性質をもつことから、都市計画マスタープランの一部として位置づけられており、地方や地域の課題解決には大きな影響を与えている。

都市計画を適切に策定し、実現していくためには、都市の現状や変化の様子などについて幅広くデータを集めて、これに基づいて計画を定める必要がある。そのために約5年ごとに、都市計画区域について、人口、産業、市街地面積、土地利用、交通量などの現況と将来の見通しについての調査を行う。

4. 「観光」ならびに「まちなか観光」の意義、観光の要件

4-1 観光の意味と起源

観光 (sightseeing, leisure travel) は、一般的に楽しみを目的とする旅行全般（観光旅行）を指し、狭義には他の国や地方を訪ね、風景・史跡・風物などを見聞したり体験したりすること、「観光行動」ともいう。広義には、人々による観光行動および関連する事象を含めた社会現象を指す場合もあり、「観光現象」ともいえる。

「観光」という言葉は、古くは、中国の四書五経の一つ「易経」の一文である「観国之光」が語源とされている⁷⁾。それは「国の文化、政治、風俗をよく観察すること」、「国の風光・文物を外部の人々に示すこと」という意味・語感を有していたこと等も考えあわせると、「観光」の定義については、単なる余暇活動の一環としてだけでなく、より広く捉えるべきであろう。

4-2 観光と感光, まちなか観光

山田桂一郎によれば、観光とは「国の光を観る」産業であり、地域住民と顧客の双方に「感幸=感じる幸せ」につながる必要がある⁸⁾、地域振興もかくあるべきであろう。さらに現在は、SDGs、環境意識の高まりを踏まえて、自然・社会環境と共生する観光を振興し、その土地や地域社会に係る魅力の継続、資源の保全・発展、住民や観光客の満足度の継続等多様な側面からも持続的な発展が可能となるような観光の振興を図っていく必要がある。

そして、観光は典型的な風景・史跡・風物に限らず、日々の生活そのもののなかにもある。最寄り駅を降りると買い物客でにぎわう商店街がある。そこから歩くと由緒ある寺社が現れ、その先に野菜が実る畑が広がる。まちには多様な表情があり、歩くたびに新たな発見がある⁹⁾。まちの魅力を、居住者、来訪者がともに楽しみながら回遊できる「住んでよし、訪れてよし」の“まちなか観光”に取り組むことは重要である。和歌山大学南紀熊野サテライト(田辺市新庄町)では、大学の研究・教育機能を活用して地域づくりに貢献する「大学の地域ステーション」をめざして、地域社会と創造的な教育、研究、社会連携活動を行っている [写真4-1]。

写真4-1 和歌山大学南紀熊野サテライト講義後



(注) 筆者を除き、和歌山大学南紀熊野サテライトの構成メンバーである。左から小川雅則氏(同サテライト代表・特任教授)、出口竜也氏(観光学部教授)、山田桂一郎氏(同サテライト客員教授・JTIC.SWISS ファウンダー)、西中亮人氏(同サテライトコーディネーター)、筆者。2023520撮影。

4—3 観光の要件：アトキンソンの4項目と新たな要件

日本のインバウンドの取り組みに影響を与えたデービッド・アトキンソン (David Atkinson) は、その著書『新・観光立国論』は、日本の観光産業における強みと弱みを分析し、日本が「観光立国」になるための方針を示した。この中で、「観光大国」になるための要件として、「気候」「自然」「文化」「食事」の4つの項目が挙げられている。アトキンソン氏によれば、日本はこれらの条件を全て満たしているという¹⁰⁾。

気候は気温差が大きく、北ではスキー、南では海水浴が楽しめる。自然は山や海に囲まれており、動植物が豊富である。文化は古くからの歴史的な建造物と、アニメなどのポップカルチャーがある。そして食事は「和食」として世界文化遺産になるほどの認知を得ている。このように、日本は「観光立国」になり得る潜在力をもっているといえる。

しかし2020年、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という未曾有の経験を経て、観光の要件も変化した。アトキンソンの提唱した要件は、あくまで平時の要素を言い表したものであり、コロナ禍は有事であったため、さらに旅行先の要件として、「安全・安心」が加わると考えられる¹¹⁾。もちろん、従来から「安全・安心」も選択基準に含まれてきたものの、自覚的、意識的に認識されていたとはいえ、コロナ禍を経て意識的に選択基準として考えられるようになった。なお、安全と安心は以下のように区別されるものである。

安全：医療体制が整っているとともに、衛生管理やクラスター発生防止策をはじめとしたコロナ対策が、各自治体やホテル、飲食店、商業施設等で確実に取り組まれている。

安心：上記の案内や情報発信が多言語で行われており、かつタイムリーである。

新型コロナウイルスの脅威を経験した世界では、「安全・安心」を満たしていることが観光地としての要件になる。日本国内の「安全・安心」の

整備は不可欠であり、かつ、それを海外にいち早く発信できなければならぬであろう。

5. 東大阪市ならびに田辺市の概略

5-1 東大阪市

東大阪市は、大阪平野の東部、中河内地域に位置し、大阪府の中核市に指定されている。面積は、61.78km²、総人口は、485,709人(推計人口、2024年1月1日)である。大阪市および堺市の両政令指定都市に次いで大阪府第3位の人口を擁する。大阪市の衛星都市・ベッドタウンである一方、大阪都市圏の中心都市に属する。市域の大半は平坦な低地で河川の多くは天井川であり、市東部は生駒山系の山々が連なっており、豊富な自然が残されている。主な河川には長瀬川・恩智川・玉串川・第二寝屋川などがある。技術力の高い中小企業が多数立地するものづくりのまちとして、またラグビーの聖地である東大阪市花園ラグビー場を擁する「ラグビーのまち」として全国に知られる。

1967年2月に布施市、河内市、枚岡市が合併し、大阪府で31番目の市として東大阪市が発足し、2003年5月に市役所が現在地に移転した¹²⁾。そして2005年4月、大阪府では堺市(現在は政令指定都市)、高槻市に次ぐ中核市に移行した。東大阪市のまちのスローガンは、主に2つある。

- (1) 暮らしと仕事が良い関わりをもつモノづくりのまち。
- (2) 誰もが快適に暮らし、企業も元気なまち。

以下、モノづくり東大阪市の特徴をいくつか列挙する。

第1に、東大阪市は、日本を代表する“モノづくりのまち”であり、市民とモノづくり企業がともに理解し、共生するまちづくりを進めていることである。日常の暮らしに欠かせない技術から世界的な最先端技術まで、幅広い技術がこの東大阪には集積している。製造業の数が全国で5番目に多い。市内の製造業の事業所数は5,564で、全国5位となっている。政令指

定都市を除くと、全国1位という事業所数は、東大阪市が日本屈指のモノづくりのまちであることを証明している。東大阪市内には、明石海峡大橋などの有名なインフラや世界的に有名な航空機のボーイング社やトヨタ自動車などに部品を供給して企業を下支えしている工場が多数存在する。また、身近なところでは歯ブラシ、カバン、家具の製造や国内の交通系ICカードのすべての加工と検査を行うなど、人々の暮らしを支える技術で世界とつながっている。

第2に、東大阪市では製品を受注した企業が、自社だけでは困難な仕事でもつながりのある企業と協力してネットワーク化して製品づくりを行い、モノづくりの可能性を広げていることである。東大阪市のモノづくり企業には、親会社との系列を持たない企業が多いという特徴がある。他都市で見られる少数の大企業と系列会社で構成されるピラミッド型ではなく、地域内の分業が発達し、大企業と中小下請けという縦系列の関係のみならず、中企業と中企業、中企業と小企業、小企業と小企業という縦横のネットワークで構成されている。地域内でのそのような関係性が、チャレンジ精神にあふれるまちをつくりあげ、国際競争力を支える基礎となっている。

第3に、モノづくりのまちである東大阪市にとって、モノづくり企業の集積は地域経済を支える重要な存立基盤である。このため、東大阪市では、市民の良好な住環境とモノづくり企業の操業環境を保全し、創出することにより、住工共生のまちを実現していることである。

第4に、中小企業は地域経済の主役となるため、企業支援のメニューも充実しており、「東大阪市中小企業振興条例」を定め、中小企業の振興に務めている。また、企業支援として、「高付加価値化」「販路開拓」「創業環境の維持」「人材育成」という観点からモノづくり企業の支援の取り組みを進めるとともに、各施策を有機的に連携させ、モノづくり企業の「情報収集」「製品企画」「試作品」「製品化（生産）」「販路開拓」までを総合的にサポートしている。

写真5—1 東大阪市役所



（注）2023 8 10 筆者撮影。

最後に、東大阪市では、モノづくりのまち東大阪の優れた技術をデータベース化したウェブサイト「東大阪市技術交流プラザ」を運営している。東大阪市技術交流プラザでは、約1,200社の市内モノづくり企業の技術や製品情報を掲載しており、加工依頼、部品調達、試作品作りなどビジネスパートナー探しに活用することができる〔写真5—1〕。

5—2 田辺市

田辺市は、和歌山県中南部に位置する市である。人口・経済の点で和歌山県第二の都市であり、和歌山県南部の経済・産業の中心地でもある。田辺市は、古くから熊野三山への交通の要地として栄え、平安時代から江戸

時代にかけて熊野詣をする人が多く、江戸時代は田辺藩初代藩主「安藤直次」の城下町としても発展する。安藤氏は座（商工業者や芸能者による同業者組合）という制度を設け、商業を奨励した¹³⁾。

城下町の風情を残す町並みも見られ、鉄道はJR紀勢本線が通過しており、1932年（昭和7年）に開業した「紀伊田辺駅」は市を代表する駅である¹⁴⁾。

現在の田辺市は、(旧)田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村、本宮町の5つの市・まちが市町村合併により、2005（平成17）年5月から、新「田辺市」として生まれ変わったもので、「自然と歴史を生かした新地方都市の創造」を基本目標とした、新たなまちづくりを始めている。田辺市を中心とする周辺地域は西牟婁圏域（田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町）ともよばれる。西よりの海岸部に都市的地域を形成するほかは、森林が大半を占める中山間地域が広がり、主な水系としては日高川水系、富田川水系、日置川水系、熊野川水系の4水系を抱える、広大な圏域である。また、気候は海岸部の温暖多雨な太平洋型気候から、山間地における内陸型の気候まで、広範囲にわたっている。

田辺市はユネスコの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる「熊野古道」の中辺路ルートと大辺路ルートの分岐点であり、まさに起点であった、「口熊野」とも称される。面積は、1,026.91km²、総人口は、66,182人（推計人口、2024年1月1日）である。近畿地方の市では面積が最大である（全国順位は28位）。

地理・気候については、気候は黒潮の影響で、比較的温暖であるが、内陸は山が迫り、山地的な気候の影響がある。一方、市の北部は紀伊山地に面する。熊野本宮大社をはじめ、熊野参詣道、熊野九十九王子社跡などは、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる物件である。海岸線は入り組んで田辺湾を形成する。湾の北の端には天神崎があり、南側は白浜に接する。湾内には神島など小さな島があり、亜熱帯性の生物が記録されて

いる。

地元では、武蔵坊弁慶（歴史上の人物、武士）、南方熊楠（生物学者、民俗学者、博物学者）、植芝盛平（文化人、武道家、合気道の創始者）を「田辺の三偉人」と呼ぶ。このうち南方については後半生を田辺市で過ごしていることもあり、生誕150年となる2017年に田辺市名誉市民の称号が贈られた。次に、田辺市の主な産業を概観する¹⁵⁾。

(1) 農業・水産業

市域の多くを山地が占めており、市街地は西部の紀伊水道（和歌山県、徳島県、兵庫県淡路島によって囲まれる海域）に面した沿岸部に広がる。沖に黒潮が流れることから、気候は比較的温暖。農業では、温暖湿潤な気候を活かした果樹栽培が盛んである。特に、梅、温州みかん、晩柑類、スモモなどが代表的な特産品として挙げられる。古くから栽培が続く温州みかんは、極早生品種から完熟品種、中晩柑品種、晩柑品種まで種類も豊富。また、梅は年間約2万t生産され、生果や梅干しとして出荷される。完熟した南高梅を使った紀州梅干しは健康食品としても人気がある [写真5-2]。

写真5-2 田辺市のみかん・梅干し農家 十秋園



(注) 野久保太郎氏(左, 社長), 登司氏(右, 父)。2023.8.23 筆者撮影。

また、市内では畜産業も営まれており、和歌山県産の黒毛和牛「熊野牛」も市の特産品のひとつである。さらに漁業は市内にある田辺漁港で営まれており、カツオやイサキ、サンマなどが水揚げされる。イサキは「紀州いさぎ」として知られ、ブランド海産物として有名である。

(2) 工業・産業

田辺市には熊野三山へ続く街道が通過していたことから、古くから交通の要衝として栄えていた。近代になると貝ボタンの製造が盛んになる。もともとは農家の副業として興ったが、昭和期になると工業化が進み、第1次世界大戦の軍需も相まって、工場も建てられるようになった。また、このころは林業も盛んで、山から原木を運ぶためのロープウェイもかけられ、田辺市の産業が発展する。

明治期になると鉄道が整備され、徐々に近代化が進んだ。市内は「城山台企業団地」を中心に工場や事業所が集積した。食料品製造業、木材・木製品製造業、金属製品製造業などが製造品出荷額の上位を占めている。

一方、梅の一大産地としても知られる田辺市では、梅の加工も盛んである。また、江戸時代から続く代表的な地場産業として「紀州備長炭」が作られており、浄水や消臭目的で利用される他、風鈴やオブジェなど幅広い用途で活用されている。

(3) 商業・サービス業

田辺市は、熊野三山への交通の要地として栄え、江戸時代には藩主・安藤が座制度を設けて商業を奨励したことは既に述べた通りである。JR 紀伊田辺駅の周辺には200軒ほどの飲食店が立ち並び、県内有数の繁華街「味光路」があるのも特徴である。また、「熊野古道」や「熊野本宮大社」など、多くの歴史的文化的資源もあることから、観光業も市内商業の一端を担っている。

(4) 観光・レジャー

田辺市は、温暖な気候に恵まれている一方、山地が多いことから日中・年中の寒暖差が大きい地域である。市内には「熊野本宮大社」や「湯の峰温泉」などが立地し、「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる「熊野古道の中辺路」として世界遺産に登録されており、日本だけでなく世界からも多数の来訪者があり、注目を集めている。

「熊野本宮大社」は全国にある熊野神社の総本山である。熊野三山のなかでも特に厳かな雰囲気が漂う。そして、毎年4月に行われる「熊野本宮大社例大祭」は、本宮大社で催される最も大きなお祭りで、3日間にわたって斎行される。県の無形民俗文化財に指定されている「湯登神事」、大漁満足と海上安全を祈願する「船玉大祭」など、様々な神事が行われることで有名である¹⁶⁾。

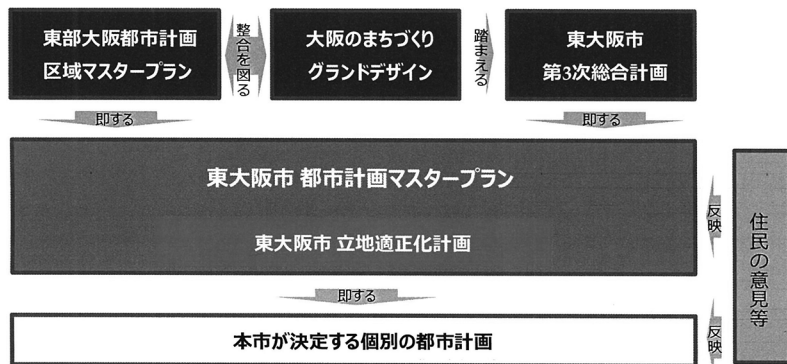
一方、田辺市立美術館が新庄総合公園の一角に位置しており、人気観光スポットとなっている。田辺市出身の実業家、脇村禮次郎のコレクションを中心に、水彩画や日本画、油彩画などを展示。紀州の三大文人画家、祇園南海・桑山玉洲・野呂介石をはじめ、郷土にゆかりのある作家の作品が見られる。館内のミュージアムショップでは絵葉書コレクションやミュージアムグッズも購入できる。また、公園内に大型の遊具があるため家族で楽しめる。

6. 東大阪市ならびに田辺市の都市計画

6-1 東大阪市都市計画マスタープランの概要

東大阪市の都市計画マスタープランは、2013(平成25)年3月に既存の計画を見直し、運用していたが、見直し以後、上位計画の改定やさまざまな社会情勢の変化を受け、2023(令和5)年3月31日に「東大阪市都市計画マスタープラン(立地適正化計画)」として、都市計画マスタープランを改定した。マスタープランは全6章135から構成される¹⁷⁾ [図表6-1]。

図表 6—1 東大阪市都市計画マスタープラン 計画の位置づけ



(出典)「東大阪市都市計画マスタープラン（立地適正化計画）」序章，2頁より引用。

主な目次は以下の通りである。

- 序章 都市計画マスタープランについて（立地適正化計画）
- 第1章 東大阪市の現況と都市構造上の課題
- 第2章 東大阪しがめざす都市づくり
- 第3章 基本方針に基づき取組む施策
- 第4章 コンパクトなまちづくりの推進 ～立地適正化計画～
- 第5章 防災機能が確保された災害に強いまちづくりの推進 ～防災指針～
- 第6章 都市計画マスタープランの推進

6—2 東大阪市都市計画マスタープランの詳細

(1) 都市計画マスタープラン（立地適正化計画）とめざす都市づくり [序章，2章]

■東大阪市の都市計画マスタープラン

都市計画マスタープランは本市が定める「総合計画」や大阪府が定める「東部大阪都市計画区域の整備，開発及び保全の方針（都市計画区域マスタ

ープラン）」に即し定めることになっている。都市計画施設（道路、公園など）や地域地区（用途地域、特別用途地区など）といった個別の都市計画を定めるにあたっては、都市計画マスタープランと整合が図られている必要があることから、まちづくりを進めるうえで重要な方針である。現在の「東大阪市 都市計画マスタープラン」は中間見直しの時期を迎えている。

■立地適正化計画

立地適正化計画は、都市全体を見渡したマスタープランとしての性質をもつことから、都市計画マスタープランの一部として位置づけられており、本市においても2019（平成31）年3月に「東大阪市 立地適正化計画」を策定している。本計画は、「東大阪市 都市計画マスタープラン」、 「東大阪市 立地適正化計画」の2つの計画をまとめたものである。

■中間見直しの背景

2013（平成25）年に本市の都市計画マスタープランを改定以降、国による法制度の改正や立地適正化計画の策定など都市計画を取り巻く様々な社会情勢の変化が生じている。また、2020（令和2）年には上位計画である「東大阪市第3次総合計画」、 「東部大阪都市計画区域マスタープラン」の策定・改定、2022（令和4）年には大阪のめざすべき都市像を示した「大阪のまちづくりグランドデザイン」の策定を受け、これらの計画が示すまちづくりの方向性と整合を図る必要があり、変化に対応したまちづくりの方針の再検討と内容の見直しが急務となった。

■都市づくりの基本目標（東大阪市第3次総合計画 実現すべき将来都市像）は「つくる・つながる・ひびきあう ― 感動創造都市 東大阪 ―」
目標年次は2030（令和12）年である。

(2) 基本方針に基づき取組む施策 [第3章]

■都市づくりの基本方針

「国土軸や大阪都市圏とつながる利便性を活かしたコンパクト＋ネットワークの取組を推進する」

◎都市づくりの基本方針1

新たな価値を創造する拠点を構築し、人・モノ・情報の交流を呼び起こす都市づくり

本市は鉄道や高速道路といった都市基盤施設が高い水準で整備されており、日本の骨格を形成する国土軸や大阪都市圏に存する主要都市に容易にアクセスすることができる。こうした日本や関西を支える広域的な軸・拠点とのつながりを意識し、交流の核となる鉄道網・高速道路が結節するエリアを中心に新たな価値を創造する魅力的な拠点を構築する。拠点の魅力とともに、花園ラグビー場・鴻池新田会所など本市が誇る地域資源を世界に発信し、市の内外にとらわれず、人・モノ・情報の交流を”呼び起こす”都市づくりを進める。

◎都市づくりの基本方針2

「安全・快適な生活の場」と「創造力・活力みなぎる生産の場」が調和した都市づくり

本市は関西で6番目に人口規模が大きい都市であり、市街化区域を中心に約49万人もの人々が暮らす住宅地が形成されている。また、産業面においては工業地に製造業事業所が数多く集積していることから「モノづくりのまち」という特徴を持っている。こうした土地利用の多様性は都市の魅力創出に繋がるという利点があるが、無秩序な土地利用の混在が進めば、住宅地・工業地それぞれの魅力低下という問題を引き起こす恐れもある。

人口減少社会に立ち向かうためにも、多くの人々に「東大阪市に住みた

い、住み続けたい」、「東大阪市で働きたい、働き続けたい」と思ってもらえるように、「安全・快適な生活の場」と「創造力・活みみなぎる生産の場」を形成し、それぞれの環境の調和が図られる都市づくりを進める。

◎都市づくりの基本方針3

水・みどり・歴史に囲まれた豊かな環境を創造し、次世代につなぐ都市づくり

本市には恩智川、第二寝屋川、長瀬川や生駒山系を含む国定公園など、水とみどりの自然資源が広がっているとともに、鴻池新田会所や河内寺廃寺跡といった歴史的資源が散りばめられており、貴重な地域資源が数多く存在していることから、日々の暮らしの中で自然や歴史を身近に感じることができる。

近年では、脱炭素型の都市構造を実現するためにグリーンインフラの整備が注目されているが、本市のみどりの量は不足しており、うるおいやすらぎのある良好な都市環境を形成するためにも緑地の量を確保するとともに、質の向上をめざす取組を進める必要がある。

今ある地域資源を保全・活用するとともに、公園・緑地の整備や民有地の緑化推進により新たな地域資源を創り出し、地球環境に配慮した良好な都市空間を次世代へとつなぐことを意識した都市づくりを進める。

(3) コンパクトなまちづくりの推進 ～立地適正化計画～ [第4章]

1. 立地適正化計画で解決すべき課題

- (a) 生産年齢人口の減少、高齢者の増加、厳しい財政状況
- (b) 鉄道駅周辺のにぎわい減少、都市の魅力低下
- (c) 住工の混在

2. まちづくりの方針，誘導方針 まちづくりの方針

【まちづくりの方針】国土軸や大阪都市圏とつながる利便性を活かしたコンパクト+ネットワークの取組を推進する。

【快適】誰もが暮らしやすい安全なまちの実現

【魅力】人が集う拠点の構築

【活力】創造力・活みなぎるモノづくりのまち，効率的な物流のあるまち

3. 課題解決のための施策

都市再生特別措置法（既出）に基づく都市再生を図るため，医療施設，福祉施設，商業施設などの都市機能増進施設の立地を誘導すべき区域，すなわち，都市機能誘導区域として立地適正化計画で定められる区域を設定する。

◎誰もが暮らしやすい生活環境の充実

- ・拠点となる鉄道駅周辺に，子育て支援施設をはじめとした様々な都市機能を維持・誘導する。
- ・安全性に課題がある地域を居住誘導区域から除外するとともに，安全性を高める事業の実施を働きかける。
- ・拠点となる鉄道駅周辺への各種機能の集約により，より利便性の高いまちの実現とともに，子育て環境の整備を図る。
- ・生産年齢人口・年少人口の減少抑制を図る。
- ・人口減少社会進行等による財政基盤悪化の抑制を図る。
- ・防災指針に基づく取組みを推進することにより，安全なまちの形成を図る。

◎拠点周辺のにぎわいを創出し都市の魅力を増大

- ・主要な鉄道駅周辺に来訪者拡大を目的とした高次の都市機能や地域を支

える都市機能を集約する。

- ・花園ラグビー場周辺に来訪者拡大を目的とした施設を維持・誘導する。
- ・拠点となる鉄道駅周辺への来訪者数拡大によりにぎわいを回復させ、都市の魅力増大を図る。
- ・ラグビーをはじめとした様々なスポーツにより、人の交流が育まれる魅力あふれるまちづくりの推進を図る。

◎新たな住工混在発生抑制

- ・新たな住工混在の発生を抑制し、市民の良好な住環境とモノづくり企業の操業環境を保全・創出するため、モノづくり推進地域を居住誘導区域から除外する。
- ・新たな住工混在発生を抑制することで、モノづくり企業の良好な操業環境の維持・保全・創出と市民の良好な住環境の維持・保全・創出を図る。

以上をふまえて、本市では次の法廷区域と本市独自区域を設定する。

■法廷区域

(a) 市の中心拠点：長田・荒本駅周辺エリア

「市の中心拠点」として多様な人や知の交流とイノベーション創出を促す都市空間の創造や様々な都市機能を集積し、都市魅力の向上をめざす。

(b) にぎわい拠点・にぎわいゾーン：布施駅周辺エリア

多様な人が集まり交流するにぎわいのある空間を形成することで、周辺の商店街、商業・業務機能等の強化を図り、利便性と魅力の高いまちをめざす。

(c) 地域拠点／生活拠点：(仮称)瓜生堂駅周辺エリア・鴻池新田駅周辺エリア

大阪モノレール南伸に伴い、「市の中心拠点」とのつながりがうまれることから、地域を支える都市機能や日常生活で必要となる基礎的な都市機

能の集積により、利便性の高いまちをめざす。

同上：高井田駅周辺エリア

駅の北東部と南西部にはモノづくり推進地域が広がっており、鉄道駅周辺への都市機能誘導によりモノづくり推進地域内での新たな住工混在発生の抑制をめざす。

同上：JR長瀬駅周辺エリア・瓢箪山駅周辺エリア

地域を支える都市機能や日常生活で必要となる基礎的な都市機能の集積により、利便性の高いまちをめざす。

■本市独自区域

(a) 誘導準備区域：長田駅周辺エリア

「市の中心拠点」として多様な人や知の交流とイノベーション創出を促す都市空間の創造や様々な都市機能を集積し、都市魅力の向上をめざす。

(b) ラグビーのまち誘導区域：ラグビーのまち誘導エリア

市内外からの来訪者拡大を目的とした各種機能を誘導するとともに市内外へイメージ発信することで、人の交流が育まれる魅力あふれるまちづくりを推進する。

(c) モノづくり：推進区域モノづくり推進エリア

モノづくり企業の良い操業環境と市民の良い住環境を維持・保全・創出するため、モノづくり企業の施設を誘導し、新たな住工混在発生の抑制をめざす。

4. 目標値

居住誘導区域内の生産年齢人口密度（2030年時点） 64.6人/ha

拠点となる駅勢圏内の人口（2030年時点） 長田・荒本駅 23,288人

モノづくり推進地域内で立地した一定規模以上のモノづくり企業の件数
5件/年

(4) 防災機能が確保された災害に強いまちづくりの推進 ～防災指針～

[第5章]

■本市が抱える防災上の課題

「本市が抱える災害リスク」と避難所および要配慮者施設の立地状況などの「都市情報」を重ね合わせ、都市が有する防災上の課題を抽出した。

- ・指定避難所から500m以上離れている居住区域が存在する

■広域・地域緊急交通路分断のリスク

- ・土砂流出・浸水ハザードの範囲内に指定避難所および要配慮者施設（医療施設、福祉施設、学校など）がある など

■防災指針：防災機能が確保された災害に強い都市

河川氾濫や土砂流出に起因する災害リスクを低減するために、河川改修や砂防堰堤などのハード対策を進めているが、自然災害の発生を完全に抑制するには限界がある。そのため、自分の居住地・勤務地にどのようなハザードの範囲に入っているのか、またそのハザードがどのような災害リスクにつながるのかを把握し、どこへ避難すべきなのかといった情報を把握しておくことは重要になる。こうした情報は防災ハザードマップの配布、防災教育の充実などのソフト対策の推進により普及されるものである。防災まちづくりを進めるにあたっては、ハード・ソフトそれぞれの対策を連動させるとともに、市民・事業者・行政が連携して「自助」・「公助」・「共助」それぞれの役割を果たすことが防災まちづくりを進めるうえで重要となる。こうした考え方を踏まえ、施策の取組方針を次のように設定する。

◎取組み方針

1. 災害リスクの回避

災害が発生しないようにする、または、回避するための取組を推進する。

2. 災害リスクの低減（ハード）

インフラの整備・改修等により、災害リスクを低減させるための取組を推進する。

3. 災害リスクの低減（ソフト）

災害発生時に確実な避難や経済被害軽減，早期の復旧・復興のための取組を推進する。

■目標値

安全性に課題がある地域の人口密度（2030年時点） 86.5人/ha未満

(5) 都市計画マスタープランの推進 [第6章]

■横断的な施策展開の推進

都市づくりに関する課題が多様で複雑になっている現代社会において、効果的かつ効率的に都市づくりを進めるためには都市計画分野に関わる部局はもちろん、子育て、教育、福祉、文化など他分野との組織横断的な連携・協力による総合的な施策として取組むことが一層重要視されている。

そのため、今後の都市づくりにおいては、都市づくりの基本目標の実現に向けて、様々な社会情勢の変化や国・府との役割分担、本市の持続可能な財政運営との整合などを踏まえ、展開する施策の重点化などを図りながら、関係部局が一体となりハードとソフト両面での施策を検討し、施策を展開する。

■都市づくりの基本方針に基づき取組む事業

①新たな価値を創造する拠点を構築し、人・モノ・情報の交流を呼び起こす都市づくり

・拠点形成に向けた戦略的な都市計画制度の活用 ・中心拠点形成プロジェクト ・大阪モノレール南伸事業 ・街路整備事業 ・近鉄大阪線連続立体交差事業 ・地域公共交通利用促進事業 ・景観形成推進事業 ・「文化の

まち、東大阪市」の推進・文化財保護と活用の推進（鴻池新田会所整備事業）・スポーツのまちづくり推進事業・ウィルチェアスポーツ推進事業・ふるさとづくり推進事業・ラグビー普及啓発事業・花園中央公園にぎわい創出事業・プラネタリウム活用推進事業（児童文化スポーツセンター活用推進事業）・公民連携推進事業・観光推進事業

②「安全・快適な生活の場」と「創造力・活力みなぎる生産の場」が調和した都市づくり

・良好な市街地形成推進事業・住工共生のまちづくり事業・新斎場整備事業・空き店舗活用促進事業・JR 徳庵駅東側エレベーター設置事業・空き家利活用推進事業・空き家対策推進事業・民間建築物耐震改修促進事業・「みんなで美しく住みよいまちをつくる条例」の推進・児童相談所設置準備事業

③水・みどり・歴史に囲まれた豊かな環境を創造し、次世代につなぐ都市づくり

・良好な市街地形成推進事業・公園整備事業・緑化助成事業・緑地保全事業・駅前等公共施設の緑化推進・緑化ボランティア育成事業・緑化条例の制定及び運用・2050年温室効果ガス排出実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）に向けた地球温暖化対策の推進・野外活動センター活用事業

■計画の評価・見直しの方法

当計画に記載された施策等の実施状況については PDCA サイクルの考え方にに基づき、中間評価を実施し、進捗状況や妥当性の精査・検討を実施する。また、様々な社会情勢の変化に的確に対応するため、計画を踏まえつつ、状況に合わせて、柔軟かつ迅速に対応することも必要になるため、OODA LOOP（Observe, Orient, Decide, Act / 観察, 状況判断, 意思決定, 行動）

による見直しの必要性の検証も実施する。これらの結果を踏まえ、区域や誘導施設、施策等について再検討・見直しを行う。

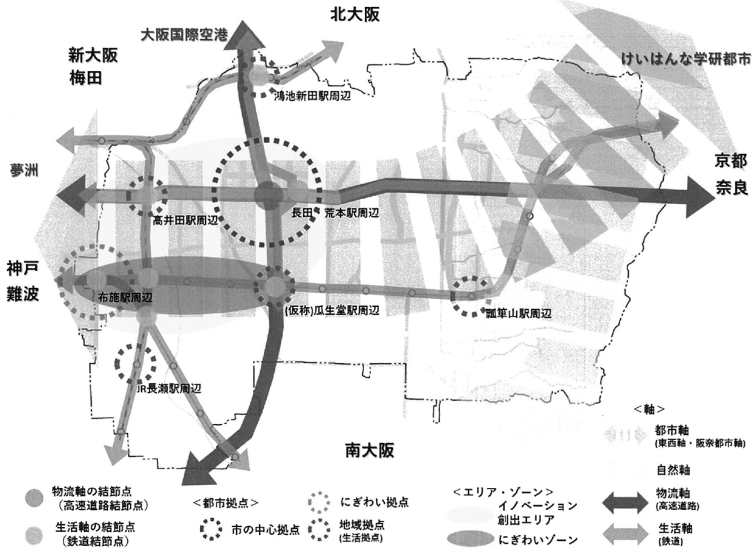
当該事業の大半は第3次総合計画 実施計画で位置付けがある事業であることから、進捗管理については第3次総合計画 実施計画の進捗管理と連携し、当計画においても進捗管理を定期的に行うこととする。

■公民連携のまちづくりの推進

少子高齢、人口減少の急速な進行等により、今や行政だけでは課題への対応が困難な時代になりつつあり、民間企業をはじめとした多様な主体との連携・協働によって効果的に取組を進めていくことが必要不可欠になっている。従って、本市においては、企業や大学のノウハウ、アイデアを積極的にまちづくりに活用することにより、地域や行政の課題解決、質の高い行政サービスの提供につなげる。

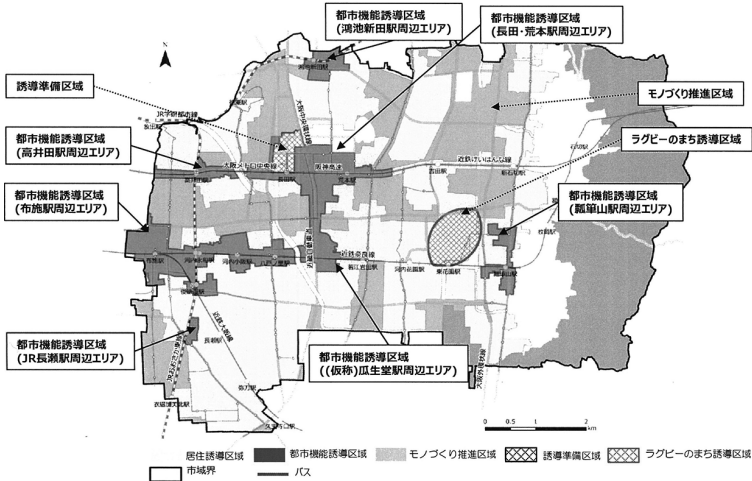
「公」と「民」がお互いの強みを提供し合い、Win-Winとなる関係を築きながら、市民にとってもメリットのある「三方良し」の公民連携を推進する。また、都市づくりの区分に応じ、市民と行政の役割を示すことで市民のまちづくりの参画を促し、市民とともに都市づくりを進めることで、都市づくりの基本目標の実現をめざす [図表 6—2, 6—3]。

図表6—2 東大阪市目指す都市構造図



(出典)「同」第2章, 62頁より引用。

図表6—3 東大阪市居住誘導区域・都市機能誘導区域



(出典)「同」第4章, 97頁より引用。ただし注記は概要版に準拠した。

6—3 田辺市の都市計画

(1) 田辺市都市計画マスタープランの概要

田辺市では2010（平成22）年3月に「地域資源が輝き、心の豊かさを実感できる 交流拠点都市 田辺」を目標に、「田辺市都市計画マスタープラン」を策定した。この都市計画マスタープランでは、豊かな自然環境と歴史を活用した交流人口の増大や産業の活性化、機能的で暮らしやすいまちづくりを推進するため、土地利用方針や道路・公園などの都市施設整備方針などを示し、まちの将来像とその実現化の方策を定める。

策定から概ね10年が経過し、「都市施設整備の進捗」「少子高齢社会の進行」「防災・減災への意識の向上」など田辺市を取り巻く環境は変化し続けており、これらの変化に対応すべく、今回「田辺市都市計画マスタープラン」を改定するものである¹⁸⁾。全6章113頁で構成されており、各章立ては次の通りである。

第1章 改定に係る概要	第2章 田辺市を取り巻く現状
第3章 田辺市のまちづくりの課題	第4章 全体構想
第5章 地域別構想	第6章 実現化の方策

(2) 田辺市都市計画マスタープランの詳細

1) 第2次田辺市総合計画（2017（平成29）年7月策定）

第2次田辺市総合計画は、第1次田辺市総合計画（2007（平成19）年3月策定）を踏まえながら、交流人口の増大、地域経済の活性化、南海トラフ地震等をはじめとした災害対応など、田辺市を取り巻く状況の変化に対応するために、都市計画に関連する事項も含め、主に以下のことを位置づけている。

◎基本理念

「一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できるまちづくり」

◎まちの将来像

「人と地域が輝き、未来へつながるまち田辺」

◎重点プロジェクト

◆人材育成プロジェクト

「未来へつながる持続可能なまちづくり」を担う人材の育成を図る。

◆価値向上プロジェクト

世界にも視野を広げ、これまでに築き上げてきた地域の価値を更に高める。

◆発信・交流プロジェクト

本市の魅力を発信することで世界から人を引き付け、そして、交流を推進する。

◆強靱化プロジェクト

市民・地域・行政がそれぞれの防災意識を高め、連携を図りながら、南海トラフ地震をはじめとする自然災害に備える。

◆暮らし充実プロジェクト

まちづくりの基礎・基盤となる取組として、未来へつながる持続可能なまちづくりを支える。[図表6—4]

◎西牟婁圏域における都市づくりの基本理念（2015（平成27）年5月策定）

◆集約拠点ネットワーク型のまちづくり

圏域の拠点として魅力と多様な機能を併せ持つ「田辺」の市街地中心部の再生／誰もが暮らしやすく、快適にすごせる美しい市街地の再生／都市構造の転換による低炭素都市づくり／自然、歴史文化などの地域個性あふれる都市づくり／経済・財政規模に応じた、まとまりある良質で住みやすい都市づくり／市街地外縁部等の無秩序な開発の抑制によるまちなか居住の推進

◆交流による活力あるまちづくり

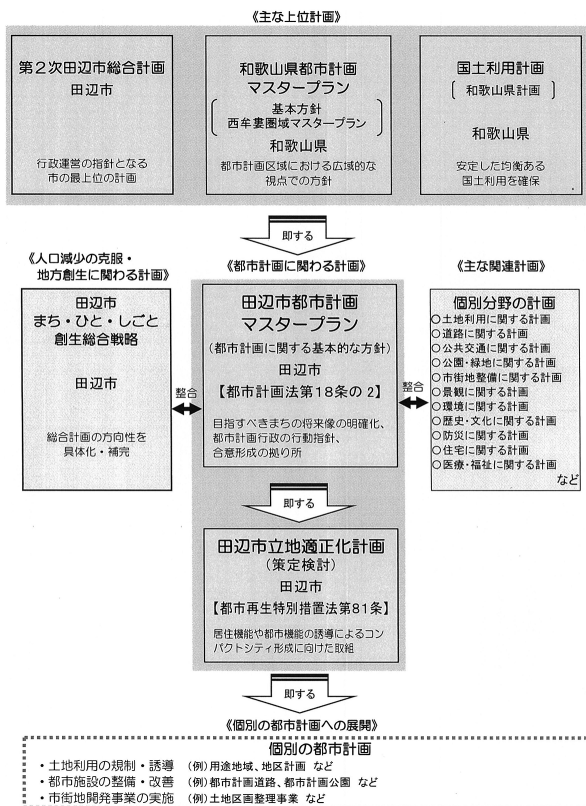
温泉・まち・農・海・川・山を活かし、価値を創造発信するまちづくり

／交流を促し支える都市基盤と交通システムづくり／和歌山県の観光交流の拠点である「白浜」の市街地の再生／多様な地域を結び、魅力を高めるネットワークづくり

◆安全・安心な（南海トラフ地震等を見据えた）まちづくり

地震や津波等に強いまちづくり／代替性・多重性のある交通体系づくり
 ／避難・救援の都市システムづくり／医療・福祉機能が充実した都市づくり

図表 6—4 田辺市都市計画マスタープラン 計画の位置づけ



(出典)「田辺市都市計画マスタープラン」第1章, 2頁より引用。

◆環境共生のまちづくり

都市・市街地を取り巻く自然環境の保全／自然を活かす快適な都市環境づくり／循環型社会を支える都市づくり／良好な景観形成を通じた地域資源を守り活かす都市づくり

◆ひと・コミュニティを育むまちづくり

まちづくりを支える人を育てる／まちづくりに取り組む組織の活動を支援する／まちづくりの交流の輪を広げる／誰もが安心して生活できる都市空間づくり

なお、地域別構想をたてる際には、地理的条件や市街地整備の課題が共通する地域としてのまとまりを考慮して6つの地域を設定している。それは、中部地域、西部地域、東部地域、南部地域、北西部地域、北東部地域である。以下簡単に紹介する。

◆中部地域：まちの玄関口である JR 紀伊田辺駅や市役所をはじめとする行政サービス施設、商業・業務施設など、様々な都市機能が集積する田辺市の経済の中心地である。また、扇ヶ浜公園、闘雞神社などのレクリエーションや歴史・文化資源も有している。近年は中心市街地の空洞化が進行しており、紀南の中心地として活性化が望まれる。

◆西部地域：市街地西部にあり、南紀田辺インターチェンジや国道42号により周辺都市を結ぶ地域である。高度経済成長期に市街化が進んだ地域であり、良好な漁業環境や豊かな自然的環境に恵まれている。三四六総合運動公園やナショナルトラスト運動の先駆けとなり吉野熊野国立公園にも含まれる天神崎を有しているなど、特徴ある都市景観を示す。

◆東部地域：市街地東部にあり、南側は文里港や新文里港に面し北側は国道42号バイパスに至る地域である。市の中心部に近い利便性から、高

度経済成長期に市街化が進んだ住宅市街地を中心とした地域であり、国や県など広域行政の優先機関が多く立地しており、本庁舎の移転先が含まれている。このほか、多くの学校教育施設が立地しており、特に、市内の全ての高校がこの地域内に立地している。

- ◆南部地域：市街地南部にあり、西は田辺湾に面し、東は上富田町に、南は白浜町にそれぞれ隣接する地域である。高度経済成長期以降に市街化が進んだ地域であり、新興住宅地のほか、南和歌山医療センターなどの広域医療施設や福祉施設が複数立地し医療・福祉ゾーンをなしている。また、県立情報交流センター Big・U や新庄総合公園など広域を対象とした施設が整備されている。吉野熊野国立公園に指定された湾岸部や内の浦干潟親水公園があるなど自然にも恵まれている。

- ◆北西部地域：市街地北西部の郊外にあり、上芳養方面やみなべ町の郊外部を結ぶ地域である。田畑・果樹園などの良好な農業環境や豊かな自然的環境に恵まれ、吉野熊野国立公園の独特な風景地も有しているなど、特徴ある農村景観を呈している。一方、準都市計画区域を含む土地利用規制の緩やかな地域であり、近年、若干の宅地開発の進行が見られる。

- ◆北東部地域：市街地北東部を取り巻く郊外にあり、龍神や本宮方面への入口となっている。田畑・果樹園などの良好な農業環境や豊かな自然的環境に恵まれ、熊野古道などの歴史文化資源も有しており、特徴ある農村景観を呈する。一方、準都市計画区域を含む土地利用規制の緩やかな地域であり、近年、宅地開発が進行している。

2) 田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015（平成27）年12月策定，
2017（平成29）年3月改定）

まち・ひと・しごと創生は，わが国の人口減少克服と地方創生を併せて
行うことにより，将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指
すものである。

◎地方創生のコンセプト

- ◆国の総合戦略と同様に「人の流れ」「しごとづくり」「結婚・出産・子育て」「まちづくり」の4つの政策分野を実施
- ◆本市の地方創生の推進に当たっては、『出身者が戻ってくる』『新たな人が移り住んでくる』という“人の流れ”をつくるのが最も重要なテーマと認識
- ◆「安定したしごと」や「結婚・出産・子育て」の取組とも連携を図りながら，新たな人の流れを創出するとともに，それらの取組を支える「暮らし続けることのできるまちづくり」についても着実に推進

◎田辺市における基本目標と具体的な施策

- ◆「新たな人の流れの創出」
ふるさと回帰・多様な移住の推進／多様な交流人口の拡大
- ◆「安定したしごとづくり」
農林水産業の“稼ぐ力”の強化／「観光立市」の促進／市内事業所の競争力強化と集積促進
- ◆「結婚・出産・子育て支援」
出会いの場づくり／子どもの誕生への支援／「0歳児から就学前」までの子育て環境の充実／「小学生から高校生」までの子育て環境の充実
- ◆「暮らし続けることのできるまちづくり」
街なかの魅力づくりの推進／活力ある山村づくりの推進／地域のつなが

り強化／公共インフラの効果的な活用

(1) まちが目指すべき方向性

田辺市では、安全・安心なまちづくりのために、南海トラフ巨大地震と本格的な人口減少社会の到来に対する備えが不可欠である。また、地方分権の進展等による地域間競争が激化する中で、地域が衰退に陥らないための備えも必要である。こうしたリスクに対する備えを実現するためには、既存の都市構造を見直すことが必要になり、本計画では、よりよい未来を切り開くことを目的とした、まちが目指すべき方向性を示す。

(2) まちづくりの基本理念（「安全・安心なまちづくり」「持続可能なまちづくり」「個性的で魅力あるまちづくり」とまちづくりの目標（～人と地域が輝き、心の豊かさを実感できる交流拠点都市 田辺～）を踏まえこの実現に向けた将来の都市構造として、田辺市域全体の都市構造と、その中の都市拠点としての田辺都市計画区域の都市構造を整理する。次頁の将来都市構造図では、人やものが集まる「拠点」とそれを結ぶ「軸」を中心に位置づけ、これらを明確にすることで各拠点の強化や連携を図り、安全・安心、快適で効率的なまちの構築を目指す [図表 6—5, 6—6]。

7. フィールドワークによる事例検証：布施駅と紀伊田辺駅の周辺地域における商店街と観光地の比較

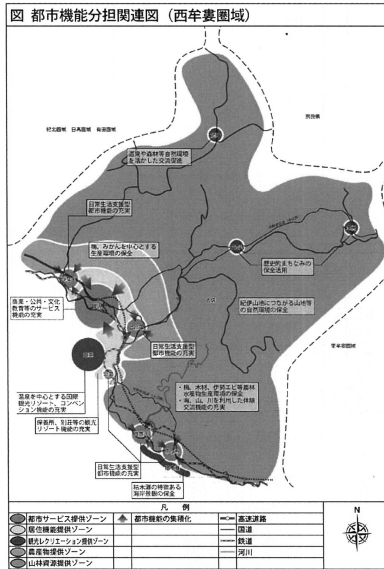
ここでは、筆者が2023年8月から2024年1月までに実施したフィールドワークを中心に両地域の検証結果を整理し、総括する。

7—1 布施商店街連絡会と布施商店街事業協同組合

(1) 布施商店街連絡会

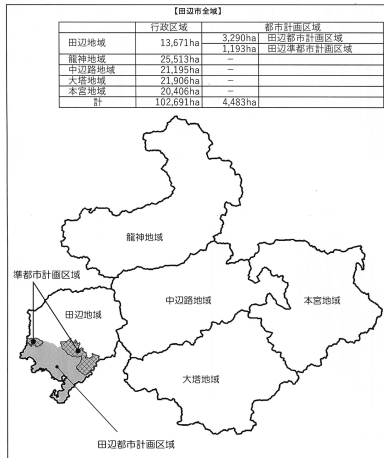
東大阪市には主の商店街地域として、布施、永和、小阪、八戸ノ里、若

図表6—5 田辺市都市機能分担関連図 西牟婁圏域



(出典)「同」第1章, 5頁より引用。

図表6—6 田辺市都市計画区域

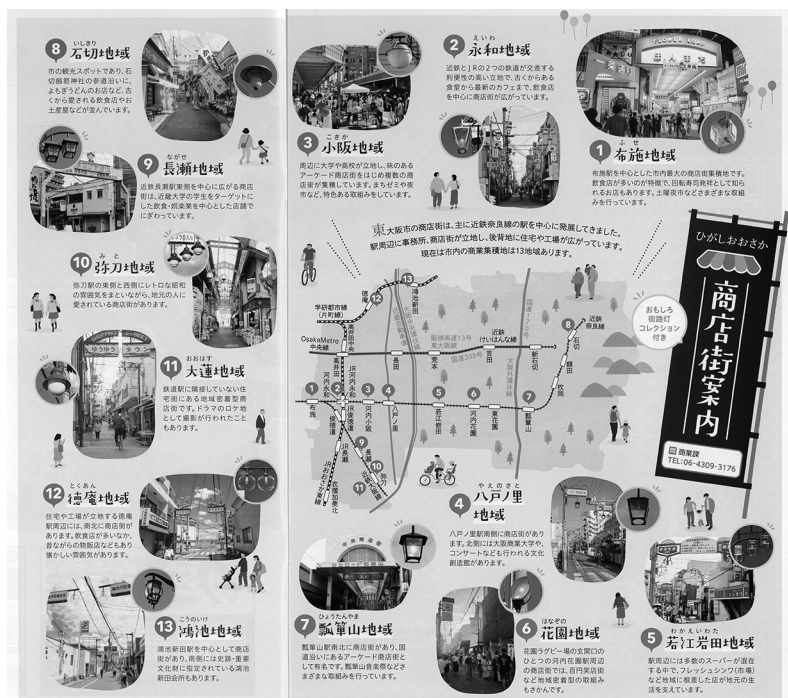


(出典)「同」第1章, 8頁より引用。

江岩田、花園、瓢箪山、石切、長瀬、弥刀、大蓮、徳庵、鴻池の13か所があげられる。このうち最もにぎわいのある地域が布施である〔図表6—7〕。

布施商店街連絡会（代表：加茂守一氏）は布施地域商店街が一带となった組織で1980年に任意団体で結成され、2001（平成13）年2月に布施商店街連絡会は法人化された。会員店舗数は現在、450である¹⁹⁾。近鉄布施駅周辺の商店街は、近鉄線を挟み駅南北と高架下に位置する東大阪市域最大の地域密着型商店街として、戦前戦後を通じて隆盛を見てきた。ちなみに20世紀に誕生し、日本の食文化の一つであり現在世界にも広がった

図表6—7 東大阪市の商店街案内



(出典) 東大阪市都市魅力産業スポーツ部・(株)サイネックス (2022)「Hi! まだ知らない東大阪市に こんにちは!」Vol. 02, 20-21頁 より引用。

写真7-1 布施商店街連絡会 加茂守一 会長



（注）加茂氏（左），筆者（右）。2023 8 10 撮影。

写真7-2 布施商店街店舗のにぎわい



（注）2023 8 12 筆者撮影。

「回転寿司」の発祥は、1958（昭和33）年、布施の元禄産業（株）の「廻る元禄寿司 1号店」である。故・白石義明（元会長）がビール工場の製造に使われているベルトコンベアにヒントを得て開発した「旋回式食事台」が基礎となっている。モノづくりのまちの好例といえる²⁰。[写真7-1, 7-2]

（a）歴史・沿革

1980年代に入って、近鉄布施駅高架事業による大型店舗の出店に伴い、

当時としてはめずらしい商店街と大型店の合同体「布施商店街連絡会」（結成当時の加盟店数は約 683 店舗）を結成した。その目的は、商業者が一体となり、布施地域の商業発展のための活性化策や地域住民との連携事業、文化事業を通じて商業集積地の生き残りを賭けた各事業を展開するものであり、この理念は、現在まで引き継がれている。さらに、布施駅周辺の小売商業者が一致団結して、活性化を図るための事業を生み出すことが重要であるとの共通認識のもと、2001（平成 13）年 2 月には布施商店街連絡会の法人化組織「布施商店街事業協同組合」（代表：平井良彦 氏）を設立した。ただ、母体組織である布施商店街連絡会は現在も健在であり、当該協同組合に参加できない大型店や中小店舗も包括し、「布施」という地域の存続および一体化のため、主に販売促進事業を中心に事業を展開している²¹⁾。

（b）布施商店街連絡会の取組み

布施商店街連絡会は、主に販売促進に関わる事業を所掌し、次の事業を展開している²²⁾。

1. 商店街「おかみさん会」発足（2003（平成 15）年度、2020 年で終了・解散。）
 - ・商店街一店逸品運動
 - ・健康づくりを目的とした商店街「ウォーキングロード」の指定
 - ・戎福茶会（毎月 10 日）
2. 布施戎神社を核にした商店街づくりを標榜し、「布施えびす市」の提唱と東大阪市小売商業活性化先進モデル事業「えべっさんの街布施プロジェクト」の推進（2007（平成 19）年度～）
3. 布施戎神社協賛によるミス福娘コンテスト（布施商店街連絡会結成当時～）
4. 盆踊り大会（当初は、各商店街内でも実施されたが交通広場整備後現在では、北口交通広場で実施。地域と一体化した事業で、地域住民との交流及び商店街活性化に貢献している。）

5. 北口駅前警察官立ち寄り所(派出所)開設事業と防犯カメラ設置事業促進による安全安心づくり事業等
6. 商店街マスコットキャラクター「ふせロボくん」プロジェクト
7. プレミアム共通商品券事業「ニコニコえびす券」事業
8. 100円商店街事業
9. 大型店(近鉄百貨店東大阪店ほか)との合同催事(歳末大売出しほか)

◎事務所住所

〒577-0057 東大阪市足代新町 1-41-51 ロンモール布施西館 2階

(c) 布施商店街連絡会の年間イベント：2023年度の場合

布施は、東大阪最大の商店街連絡会が地域の人々と一緒にまちづくりを行っており、魅力にあふれている²³⁾。イベントには商店街の近隣にある大阪商業大学、近畿大学などの学生の協力も得ている。

1月：布施のえべっさん

毎年1月9日から11日までの三日間行われる「布施戎(十日えびす)」は商売繁盛を祈願する新年行事で、当日は近鉄布施駅前からの参道に出店が並び、神社境内は福笹を買い求める参拝客らでにぎわう。

7・8月：土曜夜市

毎年7~8月、布施南北商店街が合同で土曜夜市を開催している。昭和55年から駅周辺商店街や小売市場が企画してスタートした。100軒以上の露店が並び、地元の夏の風物詩として定着している。

9月：秋の催事「布施まつり」

9月中旬に数日行われる布施まつり。2017年は布施商店街連絡会40周年という記念の年ということもあり、例年以上に盛大に開催された。

東大阪市ならびに田辺市の都市計画をふまえた未来志向のまちに関する検証：布施駅と紀伊田辺駅の周辺地域における商業と観光の課題と展望

○盆踊り

2023年度で第86回目の開催となる。

○布施プロレス

9月23日（土祝）13時～16時

布施駅北側交通広場で3年振りにリングを設置して開催した。[写真7—3]

写真7—3 布施プロレス（1）



（注）2023 9 23 撮影，shoichi koba 氏 提供。

写真7—3 布施プロレス（2）



（注）2023 9 23 撮影，shoichi koba 氏 提供。

○ダンスイベント

9月23日(土祝)16時~18時30分

フラダンス・キッズダンス・Studio Inkのダンスがおこなわれた。

○子ども縁日

9月23日(土祝)・24日(日)13時~17時

場所:ヴェル・ノール布施1階

○布施ストリートダンス甲子園

9月24日(日)12時30分~18時30分(開場11時30分)

場所:クレアホール・ふせ 東大阪唯一の本格派ダンスイベントである。

○妖怪あつめ

9月24日(日)15時~19時(13時30分から受付スタート)

受付場所:クレアホール・ふせ

11月:福娘コンテスト

12月:冬の催事 ニコニコえびす券

第二次審査合格者の中から、容姿・明るさ・表現力などの審査を行い、ミス福娘1名、準ミス福娘2名、入賞者5名を決定する。

(2) 布施商店街事業協同組合

近年、消費者行動の変化やモータリゼーションの進展に伴い大型店の郊外出店の増加などにより、空き店舗が増加するなど、商店街の集客力が著しく低下している。それは、地域経済全体の活力を低下させることにもなることから、従来、任意団体として布施商店街連絡会を組織し、布施駅南北、高架下商店街の共通する催事を中心に事業を展開してきた。より一層

強く団結し、規模のメリットを最大に生かしていくためには、任意団体である布施商店街連絡会を発展させ、平成13年2月に、事業協同組合を設立し、相互扶助の精神に基づき、イベントの開催などの共同宣伝事業を通して、地域の集客力の向上を図るとともに、組合員の自主的な経済活動を促進し、その経済的地位の向上を図ることを目的とするものである²⁴⁾。

7-2 まちなか観光の事例1：布施のえべっさんと布施戎ミス福娘の選出ならびにSEKAI HOTELの役割、大学とのコラボレーション

(1) 布施戎神社の歴史

この地は、足代村の氏神として延喜式(927)の神名帳にみえる都留弥神社(祭神 速秋津日子神・速秋津比売神)がまつられていた。江戸時代後期の「河内名所図会」1801(享和元)年刊には、都留弥神社、足代村にありと記されている。1885(明治18)年の淀川大洪水により、神社は、神殿・宝物・古文書などすべてを流失し、その後、村民の手により再建されて、足代村の氏神社としてまつられた。都留弥神社は、1907(明治40)年から始まった国の神社合併により、近隣の荒川・長堂・岸田堂などの神社と合併して、この地から東方約1kmの現境内地に移転した。この時に等境内地は、地元足代の有志へ払い下げられ、民有共有地として保管されてきた²⁵⁾。

(2) 布施のえべっさん

布施戎神社は1954(昭和29)年に西宮戎神社から分祀され、布施の戎さんとして親しまれている。布施戎神社祭礼参道周辺地域が商業地として発展するのに伴い、さらに1988(昭和63)年には、大阪の今宮戎神社から事代主命(ことしろぬしのみこと)を勧請し、以来、厳粛な祭祀を執行し、広大な御神徳を仰いでいる。現在、河内の布施のえべっさんは、まちなか観光の要所のひとつとなっている²⁶⁾。

毎年11月から12月にかけて布施戎ミス福娘が決定する。2024年のミ

写真7-4 布施戎ミス福娘コンテスト (1)



(注) 2023 11 26 撮影, 東大阪バーチャルシティ 提供。

写真7-4 布施戎ミス福娘コンテスト (2)



(注) 2023 11 26 撮影, 東大阪バーチャルシティ 提供。

ス福娘は、今中菜月さん、準ミス福娘：芳原唯菜さん、萬徳桃可さん、入賞：宮本恭実さん、坊迫咲藍さん、喜村芽依さん、辻村舞里愛さん、蜂谷桃華さん、水澤葵衣さんとなった。[写真7-4]

(3) SEKAI HOTEL Fuse の開業

大阪市西九条に1拠点目を構える SEKAI HOTEL は、点在する空き家を再生利用し街全体をホテルに見立てて開発する宿泊施設で、住宅リノベーションを手掛けるクジラ (大阪市) が展開する。フロントを中心に客室が

街の中に点在しており、通常のホテルでは一棟に全ての機能をそろえるが、飲食などは周辺の飲食店を利用してもらうなど、街全体にホテルの機能を分散させているのが特徴である。「その地域の日常に溶け込む非日常体験」を提供する宿泊施設として展開する。SEKAI HOTEL Fuseはその第2拠点目となり、2018年9月に開業した²⁷⁾。

フロント機能を持つのは、みやこ町商店会内で約50年営業していた婦人服「キヨシマ洋装店」跡である。外観はキヨシマの看板を残しながらリノベーションし、町工場が点在する地域の特徴からインダストリアルモダンをテーマに内装を仕上げた。ソファや照明は地域で作られたものや地域の職人と共に作っており、フロントが観光客から見える仕組みにしている。ものづくりの街を発信する方法のひとつといえる。

事業責任者、クジラ（株）の小林昂太氏によれば、宿泊客が特典を受けることのできる物販や飲食の提携店を増やし、地元市民に深く定着している「土曜夜市」や「布施えびすバル」などのイベントを観光客にも発信していくという。空き店舗活用の方宿、商店街で買物・食事・銭湯の利用は商店街の再生に重要な仕掛けである。SEKAI HOTEL Fuseはまち全体を一つのホテルに見立てて運営している。まちなか観光をすすめ、布施の商店街活性化・地域創生に新たな可能性を拓いたSEKAI HOTELのビジネス戦略といえる。居住者と来訪者を巻き込みながら発展させるは地域創生のモデルは布施だけでなく他の地域でも適用できるモデルになり得ると考える [写真7—5]。

(4) 大学とのコラボレーションによるカラオケルームのデザイン

全国で178店舗（2023年12月末時点）を展開しているジャンボカラオケ広場（略称：ジャンカラ）は、2022年6月、近畿大学（文芸学部・岡本清文研究室の教員と学生）や東大阪市の町工場と共同でデザインしたコンセプトルームを導入した店舗「ディープ布施店」を開店した。部屋タイプは、ゴー

写真7-5 SEKAI HOTEL Fuse (1)



(注) SEKAI HOTEL Fuse フロント受付 2023 8 11 筆者撮影。

写真7-5 SEKAI HOTEL Fuse (2)



(注) 商店街空き店舗をリノベーションした客室 小林昂太氏(左、SEKAI HOTEL (株) 事業責任者)、筆者(右)。2023 8 11 撮影。

ルデンルーム (ゴールドを基調とするゴージャスな内装)、ガレージルーム (町工場の廃材や工具などを活用してインダストリアルな空間) の2つで、布施の魅力を感じられる空間を演出している²⁸⁾。

7ー3 田辺市熊野ツーリズムビューローと田辺観光協会ならびに商店街

(1) 田辺市熊野ツーリズムビューロー

田辺市熊野ツーリズムビューロー／Tanabe City Kumano Tourism Bureau（会長：多田 稔子 氏）は、2005（平成17）年の田辺市の合併に伴い、翌18年4月、田辺市内の観光協会（田辺・龍神・大塔・中辺路町・熊野本宮）を構成団体として設立した、官民共同の観光プロモーション団体である。2010（平成22）年5月まで（約4年間）は、主に国内外に向けた情報発信と、受入地のレベルアップに関する事業を中心に取り組んできた²⁹⁾。

これまでの受賞歴としては、2009年の読売新聞平成100年景観旅行功労賞、JTB文化交流賞-優秀賞を皮切りに、日本のみならず海外の、World Travel and Tourism Council、ツーリズムフォートゥモローアワード、Destination Stewardship Finalist (2012)、Featured Presenter at 1st UNWTO International Congress on Tourism & Pilgrimages (2014)、Minister of Economy, Trade and Industry: Selected Regional Business Development Organization (2018) など多数の受賞を経験しており、直近では、JAPAN TRAVEL AWARDS 2023 サステイナブル部門 受賞、令和4年度観光庁先駆的DMO（Aタイプ）選定（いずれも2023）を受けており、その評価は極めて高い³⁰⁾。和歌山市にある和歌山大学には観光学部があり、日本でも有数の観光を基礎とした価値創造と地域創生を推進している知の拠点となっている [写真7ー6]。

◎事務所住所：

〒646-0031 和歌山県田辺市湊1-20 田辺市観光センター2階

(2) 田辺観光協会

5つの市町村が合併してできた田辺市には旧市町村単位で5つの観光協会がある。田辺観光協会（会長：田上雅人 氏）はその1つであり、沿岸部

写真7-6 南紀みらい(株) サテライトオフィス 紀伊田辺駅前



(注) 田辺市熊野ツーリズムビューロー店舗のリニューアル後。2023 8 23 筆者撮影。

写真7-7 田辺市役所企画部たなべ営業室



(注) 入口直史氏(最左, 同市役所), 筆者(左より2人目), 田上雅人氏(3人目, (株)たがみ 代表取締役社長, 田辺観光協会 会長), 馬場翔平氏。2023 8 23 撮影。

の旧田辺市にある観光協会で、エリア内の観光情報の発信、観光振興に取り組んでいる³¹⁾。[写真7-7]

(i) 目的

観光事業の発展及び観光客の誘致を図るため、観光宣伝の高揚に努めるとともに、観光開発を促進し、もって地域の産業経済の振興に寄与するこ

と。

(ii) 事業

観光事業の計画及び促進、観光事業に関する調査研究、観光資料の収集頒布及び紹介宣伝並びに観光客の誘客、その他本会の目的達成に必要と認められた事業

◎事務局住所

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地 田辺市役所観光振興課内

(3) 田辺市の商店街

田辺市には、駅前商店街・北新町商店街・銀座商店街・栄町商店街・湊本通り商店街・宮路通り商店街・弁慶町商店街の7つの商店街振興組合があり、これらを田辺市商店街振興組合連合会（通称：商連、理事長：串明洋氏）が連合会として束ねている³²⁾。

田辺市商店街振興組合連合会は、1967（昭和42）年に6つの商店街が協力して設立された。以来、それぞれの商店街の活性化を通じて地域の発展に寄与すべく、それぞれの商店街が協力して協同イベント等を開催してきた。また田辺市の経済の中心地として、変化する時代の中で道路整備や区画整備などの事業を進めてきた。これからも紀南地域の経済の中心地として、地域のにぎわいを創造に挑戦し続けていくことを目標としている。

7—4 内閣府「SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業」採択と

たなべ未来創造塾

2018年より国、内閣府は地方自治体との連携と協力を得ながら、SDGsの理念に沿って積極的な取り組みを推進しようとする「SDGs 未来都市」を選定し、持続可能なまちづくりを目指す各地方自治体の働きを活性化させる「自治体 SDGs モデル事業」支援を始めている。

田辺市の「未来へつながるまち「田辺市」を目指して～1000年をつなぐ熊野の保全と継承～」が2022(令和4)年度「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」に採択されている³³⁾。田辺市は自治体SDGsモデル事業として「1000年をつなぐ田辺市熊野SDGsプロジェクト」において3つの課題をあげている³⁴⁾。

課題1:「熊野古道」プラス α による観光産業の活性化, 熊野の森を守る
林業の担い手確保

課題2: 地域コミュニティの再生, 次世代を担う人材の育成

課題3: 世界文化遺産の保全と継承, 環境教育の強化・脱炭素社会への
貢献

この三側面をつなぐ「統合的取組として, 熊野の未来を拓くひとりづくりプロジェクト」をすすめる, 森林整備や森林環境教育を通じて次世代を担う人材を育成するとともに, 地域課題の解決や地域資源の活用をビジネス手法で考えるローカルイノベーターを育成し, さらに, 都市部の人材との交流を通じて関係人口を創出することにより, 熊野地域の未来を拓く「ひとりづくり」を推進する。

- (1) 森を育て, 森を守る担い手づくり【**経済**】
- (2) 地域企業と連携した持続可能な社会の創り手づくり【**環境**】
- (3) 地域にコミットするローカルイノベーターと関係人口づくり【**社会**】

特に(3)については, 「たなべ未来創造塾: CSV(共通価値の創造)とカッコいい大人づくり」が基盤となる。既に田辺市では2016年に「たなべ未来創造塾」を創設しており, 人口減少を起因として生じる空き家や空き店舗の増加, 地域の担い手が不足するなどの地域課題の解決や, 世界遺産「熊野古道」や世界農業遺産をはじめとする多くの地域資源の活用に向け, 企業の営利活動との共通項を探し出し, 本業を生かしてできるビジネスモデルの創出, 若手を中心にビジネスリーダーの育成を目指してきた³⁵⁾。

7—5 まちなか観光の事例2：田辺の三偉人をめぐる「まちあるき」

既に述べた、武蔵坊弁慶、南方熊楠、植芝盛平をめぐる「まちあるき」のルートがある³⁶⁾。

(a) 武蔵坊弁慶

源義経に仕えた伝説の豪傑、武蔵坊弁慶 (?-1189?) には諸説がある。熊野別当の子供である説や幼少期にまつわる史跡が数多く残っていることから、田辺が生誕の地として有力視されている。武蔵坊弁慶をめぐるまちあるきルートは以下の通りである。

① JR 紀伊田辺駅→②大福院→③鬮雞神社→④海蔵寺→⑤八坂神社→⑥弁慶松・弁慶産湯の井戸→⑦ JR 紀伊田辺駅

(b) 南方熊楠

生物学者、民俗学者、博物学者であった南方熊楠 (1867-1941) は、若いころから渡欧し、最先端の学問を吸収して、近代日本の植物学、民俗学に大きな影響を与えた。田辺市でその半生を過ごし、地域の神社や森での調査研究、神社合祀反対運動などを行い、南方に関するエピソードが多数存在する。そのゆかりの地を巡るまちあるきルートは以下の通りである。現在、白浜町には南方熊楠記念館が、田辺市には南方熊楠顕彰館がある [写真7—8, 7—9]。

① JR 紀伊田辺駅→②南方熊楠顕彰館・南方熊楠邸→③磯間浦安神社・神島 (遠望)→④日吉神社→⑤神楽神社→⑥鬮雞神社→⑦八立稲神社→⑧高山寺→⑨ JR 紀伊田辺駅

(c) 植芝盛平

文化人、植芝盛平 (1883-1969) は、世界 140 か国と地域で親しまれる武道「合気道」の創始者である。合気道は、強弱を競うことに留まらず、互いに切磋琢磨することによって心身を磨くことを目的とし、植芝は「合気

写真7-8 熊野古道中辺路 継桜王子・野中の一杉



（注）神社合祀反対運動で南方熊楠が保護した史跡。2023.9.8 筆者撮影。

とは敵と戦いやぶる術ではない、世界を和合させ、人類を一家たらしめる道である。」と述べている。植芝ゆかりの地をめぐるルートは以下の通りである。

① JR 紀伊田辺駅→②植芝盛平記念館・植芝盛平翁之像→③植芝盛平翁生誕の地→④西八王子宮→⑤地藏寺→⑥高山寺→⑦ JR 紀伊田辺駅

7-6 比較検証と考察

東大阪市の布施駅と田辺市紀伊田辺駅，その周辺地域について，それぞれの都市計画が商業，観光に与える影響について，比較検証しながら考察を試みたい。

まず，布施駅周辺地域については，市の中心拠点である長田・荒本駅周辺や生活拠点である瓜生堂駅周辺・鴻池新田駅周辺，高井田駅周辺，JR長瀬駅周辺・瓢箪山駅周辺の各地域と比べ，多様な人が集まり交流するにぎわいのある空間を形成することが主機能として求められ，商店街，商業・業務機能等の強化，利便性と魅力向上への期待が大きい。

また，中心拠点である長田駅周辺が，多様な人や知の交流とイノベーション創出，都市機能の集積に注力し，花園などラグビーのまちが来訪者拡

写真 7-9 南方熊楠顕彰館 (1)



(注) 田村義也氏(右, 顕彰会理事。成城大学講師), 筆者(左)。2023 9 9 撮影。

写真 7-9 南方熊楠顕彰館 (2)



(注) 左から, 田村義也氏(顕彰会理事, 成城大学講師), 筆者, 志村真幸氏(慶應義塾大学講師), 三村宜敬氏((公財)南方熊楠記念館学芸員, 神奈川大学講師)。2023 9 9 撮影。

大と他地域との交流促進をすすめ、モノづくり企業の良好な操業環境と住工混在発生の抑制を目指せば、おのずと布施にも来訪者する人、潜在顧客が増えると考えられる。特に布施はまちなか観光に適している。

しかし、一方で河川氾濫や土砂流出に起因する災害リスク、自然災害の完全抑制には限界があることから、日常から居住地・勤務地にあるハザードの認識を高め、防災ハザードマップの改訂と配布、防災に関するハード・ソフトの対策を連動させ、市民・事業者・行政が連携して「自助」・「公助」・「共助」それぞれの役割を果たすことが防災まちづくりを進めるうえで重要となる。その意味で布施の防災対策には一層の努力が求められるよう。

これに対して、田辺市を中核とする西牟婁圏域（田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町）は、豊かな自然環境と歴史を活用した交流人口の増大や産業の活性化、機能的で暮らしやすいまちづくりを推進するため、土地利用方針や道路・公園などの都市施設整備の方針を打ち出し、まちの将来像とその実現化の方策を定めている。

特に、紀伊田辺駅周辺は世界遺産「熊野古道」の起点であり、「熊野本宮大社」「湯の峰温泉」「紀伊山地の霊場と参詣道」など、いずれも観光価値は極めて高く、田辺市熊野ツーリズムビューローのプロモーション機能も絶大である。さらに農業は、温暖湿潤な気候を活かした果樹栽培が盛んであり、特に、みかん、梅の生果や梅干し、特に紀州梅干しは健康食品としても人気がある。また畜産業では黒毛和牛「熊野牛」、漁業では田辺漁港でカツオやイサキ、サンマなどが水揚げされ、ブランド海産物としても有名である。こうした一次産業と観光業という和歌山県の基幹産業の水準をどこまで維持発展できるか、商業との一層の連携が求められる。また、熟練層の知識・経験を若年層に確実に継承することも課題となろう。

以上、布施駅周辺地域と紀伊田辺駅周辺地域を比較したが、両地域に共

通する点もある。それは日本内外から注目を集める魅力が存在し、まちの魅力を一層高め、まちをブランド化する。次世代に明るい未来を引き継ぐべく積極的な人・物・財務・先端技術等の上での投資を行い、持続的な成長と人々が幸せに暮らせる未来志向のまちを実現する意欲があることである。

8. おわりに：布施駅周辺と紀伊田辺駅周辺の比較検証を通して

筆者は、布施駅周辺と紀伊田辺駅周辺に関する情報収集と半年にわたる現地でのフィールドワークを通して、東大阪市と田辺市は、それぞれの地域性をふまえた都市計画のもとにまちづくりをすすめていることがわかった。一見、東大阪市は典型的なモノづくり・商業のまち、田辺市は背後に世界遺産をたたえた、典型的な観光・一次産業のまちであり、両市は対照的である。しかし、産学公民連携が古くから行われていること、居住者と来訪者がともにまちを創造していることに大きな影響を与えている点においては、両市には共通点もみられる。

元来、備わっている地域資源、景観資源、観光資源などを活かして、さらに人・物・財務・先端技術等の投資を行って、交流人口を増やすとともに、若年を中心に新たな居住者を迎え入れることによって未来志向のまちを築き、新たなブランディング、価値創造を継続的にすすめていくことが重要となろう。

[謝辞]

本研究では、多くの現場関係者、特に東大阪市ならびに田辺市の行政、研究機関や民間の関係者に大変お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。特に、近畿大学東京センター事務部長・加藤公代氏、近畿大学・岡本清文教授、布施商店街連絡会・加茂守一会長、東大阪パ〖チャルシティ代表・安原武男氏、和歌山大学・出口竜也教授、田辺市役所・入口直史氏、田辺観光協会・田上雅人会長、十秋園主・野久保太郎氏、南方熊楠記念館学芸員・三村宜敬氏、南方熊楠顕彰会理事・

田村義也氏には深く感謝申し上げる次第です。

なお、本研究は成城大学特別研究助成を受けた研究成果の一部です。

[注・参考文献]

- 1) 境新一 (2014) 「日本の商店街活性化に関する課題と展望：東京都世田谷区を中心にタウンマネジメントの視点からの考察」『成城大学経済研究』, 205, 13-54 頁。
境新一 (2020) 「創造性のあるまち・商店街づくりの追求：下北沢と成城に関する70年間の変遷とフィールドワークを踏まえた提案」『成城大学経済研究』, 229, 23-73 頁。
境新一 (2023) 「拠点連携に基づくエリアマネジメント&プロデュースによる地域創生の検証：長野県飯綱町における存在価値向上の提案を通して」『成城大学経済研究(木村周市朗名誉教授古希記念号)』, 239号, 47-82 頁。
- 2) 境新一研究室 (2023) 「未来志向のまち・商店街の創造：東京、長野、大阪の事例より産学公民連携を取り入れた新たなサードプレイスの提案」第32回経営学合同ゼミナール発表資料 [最優秀賞受賞]。
- 3) 出口敦・梅澤高明 (2019) 「巻頭対談 都市と地方 未来志向のまちづくり マネジメントが創る未来のまちづくり」(一社) 不動産協会広報誌『FORE特集』2-5 頁, 114 号。
岡本清文 (2020) 「2017~2019 年度 近畿大学学内共同研究助成 東大阪の都市ブランド形成 デザイン的アプローチによる 活動報告書」4月 [研究代表：岡本清文]。
- 4) 小林重敬・青山公三・保井美樹・長谷川隆三・御手洗潤・中井検裕・村木美貴ほか (2015) 『最新エリアマネジメント—街を運営する民間組織と活動財源』学芸出版社。
- 5) レイ・オルデンバーグ (2013) 『サードプレイス：コミュニティの核になる〈とびきり居心地よい場所〉』(忠平美幸 訳) みすず書房。
原著：Oldenburg, Ray, The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons, and Other Hangouts at the Heart of a Community, Da Capo Press, 1999.
- 6) 国土交通省 (2023) 「国土交通省都市計画マスタープラン」都市局都市計画課 https://www.mlit.go.jp/crd/city/plan/03_mati/02/index.htm (最新参照 2024 年 1 月)。
- 7) 国土交通省 (2023) 「観光」の定義 https://www.mlit.go.jp/kisha/oldmot/kisha00/koho00/tosin/kansin/kansin2_.html#:~:

- text=%E3%81%BE%E3%81%9F%E3%80%81%E3%80%8C%E8%A6%B3%E5%85%89%E3%80%8D%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%E8%A8%80%E8%91%89,%E5%8D%98%E3%81%AA%E3%82%8B%E4%BD%99%E6%9A%87%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%AE%E4%B8%80%E7%92%B0
(最新参照 2024 年 1 月)。
- 8) 山田桂一郎 (2011) 「観光・地域振興が目指すもの 観光から感幸へ」『国際文化研修 2011 冬』 vol. 70 25-32 頁。Downloads/tokushuu5.pdf
- 9) 世田谷区産業振興公社 (2023) 「まちなか観光とは？」
<https://www.kanko-setagaya.jp/?p=we-page-entry&spot=215416&nav=none>
(最新参照 2024 年 1 月)。
- 10) デービッド・アトキンソン (2015) 『新・観光立国論』東洋経済新報社。
- 11) 訪日ラボ編集部 (2020) 「観光 4 大要素に追加すべき「安全・安心」とは？インバウンド復活を成功させる「2つの新条件」」
<https://honichi.com/news/2020/07/14/honichicolumn/#:~:text=%E3%80%8E%E6%96%B0%E3%83%BB%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%AB%8B%E5%9B%BD%E8%AB%96%E3%80%8F%E3%81%AE%E4%B8%AD%E3%81%A7%E3%81%AF%E3%80%81%E3%80%8C,%E3%81%8C%E6%8C%99%E3%81%92%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82> (最新参照 2024 年 1 月)。
- 12) 石上敏監修 (2023) 『写真アルバム 東大阪市の 100 年』樹林舎。
東大阪市 (2023) 「市の紹介・みどころ」
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/category/21-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>
- 13) 田辺市 (2024) 「田辺市概要」
<https://www.city.tanabe.lg.jp/subindex/outline.html> (最新参照 2024 年 1 月)。
- 14) (一社) 和歌山県建築士会 (2013) 「JR 紀伊田辺駅」『会報誌きのくに H25 年 12 月号』
https://www.wakayama-aba.jp/isan_meguri/jr%E7%B4%80%E4%BC%8A%E7%94%B0%E8%BE%BA%E9%A7%85 (最新参照 2024 年 1 月)。
- 15) 田辺市 (2023) 「統計書令和 4 年度版 (令和 5 年 3 月発行)」
https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/toukei/files/tanabe_statistical_report_R4.pdf
田辺市 (2023) 「農業の概要」
<https://www.city.tanabe.lg.jp/nougyou/nougyogaiyo.html>
- 16) 田辺市熊野ツーリズムビューロー (2023) 「紹介」「熊野古道」
<https://www.tb-kumano.jp/>
田辺観光協会 (2023) 「紹介記事」<https://www.tanabe-kanko.jp/> (最新参照 2024

- 年1月)。
- 17) 東大阪市 (2019)「都市計画マスタープラン(立地適正化計画)について」
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/0000000737.html> (最新参照 2024年1月)。
 - 18) 田辺市 (2019)「都市計画マスタープランについて」
<https://www.city.tanabe.lg.jp/keikaku/keikaku/toshimasutapuran01.html>
 - 19) 布施商店街連絡会 (2023)「連絡会概要」
<https://fuse.osaka.jp/> (最新参照 2024年1月)。
東大阪市 (2023)「商店街概要」
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000002/2146/shogyojittai.pdf>
(最新参照 2024年1月)。
 - 20) 元禄産業 (株)「事業の起源」(2023)
<http://www.mawaru-genrokuzusi.co.jp/history/> (最新参照 2024年1月)。
 - 21) 布施商店街連絡会・前掲注19)。
 - 22) 布施商店街連絡会・前掲注19)。
 - 23) 布施商店街連絡会・前掲注19)。
 - 24) 布施商店街事業協同組合 (2023) <https://fuse.osaka.jp/info/> (最新参照 2024年1月)。
同 (2023) <http://www.sankyo-kaihatsu.co.jp/renrakukai.htm> (最新参照 2024年1月)。
 - 25) 布施商店街連絡会・前掲注16)
 - 26) (株)アーステージ (2023)「まちなか観光 河内の布施のえべっさん」
<https://www.astageinc.co.jp/info/4223/> (最新参照 2024年1月)。
 - 27) 東大阪経済新聞 (2018)「東大阪・布施に「SEKAI HOTEL 布施」開業 「街の日常に溶け込む非日常体験」を <https://higashiosaka.keizai.biz/headline/828/>
(最新参照 2024年1月)。
ライフフルホームズ (株) (2019)「まちごとホテルに」で地域を活性化する」
https://www.homes.co.jp/cont/press/opinion/opinion_00226/ 2018.09.25 (最新参照 2024年1月)。
 - 28) 近畿大学 (2022)「近畿大学文芸学部・東大阪市の町工場と共同でデザインジャンカラ「ディーブ布施店」6/24 グランドオープン！」
<https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2022/06/036036.html> (最新参照 2024年1月)。
 - 29) 田辺市熊野ツーリズムビューロー・前掲注16)。
 - 30) 田辺市熊野ツーリズムビューロー (2019)「インバウンド 事例調査レポート」
https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/images/2019/01/tanabe_inbound_

- 0315_6.pdf（最新参照 2024 年 1 月）。
田辺市熊野ツーリズムビューロー・前掲注 16）。
- 31) 田辺観光協会・前掲注 16）。
- 32) 田辺市商店街振興組合連合会 (2023)「概要」<https://tanabe-shouren.kiilife.jp/>（最新参照 2024 年 1 月）。
同・「商店街の紹介」<https://tanabe-shouren.kiilife.jp/cnts/option2/?c=shoukai>（最新参照 2024 年 1 月）。
- 33) 内閣府地方創生推進事務局 (2022)
<https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/index.html>（最新参照 2024 年 1 月）。
田辺市 (2022)
<https://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/sdgs.html>（最新参照 2024 年 1 月）。
- 34) 田辺市 (2022)「自治体 SDGs モデル事業／1000 年をつなぐ田辺市熊野 SDGs プロジェクト」配布資料。
- 35) たなべ未来創造塾 <https://tanabe.miraisouzoujuku.com/>（最新参照 2024 年 1 月）。
田辺市役所企画部たなべ営業室価値創造係 (2023)「たなべ未来創造塾を核とした地方創生」（成城大学 2023 年度後期特別講義）資料。
田上雅人 (2023)「未来につなげる：米づくり・人づくり・町づくり 熊野米プロジェクト～米屋の挑戦～」(成城大学 2023 年度後期特別講義) 資料。
- 36) 田辺観光協会 (2023)「たなべの歴史に触れてみよう！」
<https://www.tanabe-kanko.jp/view/jinja/>（最新参照 2024 年 1 月）。

◎インタビュー取材 主に 2023 年 8 月～2024 年 1 月。

- 加藤公代 氏（近畿大学東京センター事務部長）2023 年 5 月 18 日，7 月 13 日，
10 月 17 日
今埜賢一 氏（東大阪市都市魅力産業スポーツ部主査）2023 年 8 月 10 日
中市達也 氏（東大阪市企画部財政部主査）2023 年 8 月 10 日
加茂守一 氏（布施商店街連絡会 会長）2023 年 8 月 10 日，11 月 26 日
安原武男 氏（東大阪バーチャルシティ 代表）2023 年 8 月 10 日，11 月 26 日，
2024 年 1 月 26 日
小林昂太 氏（SEKAI HOTEL（株）事業責任者，クジラ（株））2023 年 8 月 11
日
保本正芳 氏（近畿大学講師）2023 年 8 月 2 日
岡本清文 氏（近畿大学教授）2023 年 8 月 10 日
出口竜也 氏（和歌山大学教授）2023 年 5 月 19，20 日，8 月 24 日

- 小川雅則 氏(和歌山大学特任教授) 2023年5月20日, 8月24日
山田桂一郎 氏(JTIC.SWISS(スイス・ツエルマツト日本語インフォメーションセンター)ファウンダー, 観光カリスマ) 2023年5月20日
入口直史 氏(和歌山県田辺市役所企画部たなべ営業室価値創造係) 2023年8月23日, 12月21日
田上雅人 氏((株)たがみ 代表取締役, 田辺観光協会会長) 2023年8月23日, 12月21日
野久保太郎 氏(十秋園 園主) 2023年8月23日
三村宜敬 氏((公財)南方熊楠記念館学芸員, 神奈川大学講師) 2023年9月7日, 9月8日
田村義也 氏(南方熊楠顕彰会理事, 成城大学講師) 2023年9月8日, 9月9日